

令和6年度 第1回清川村まち・ひと・しごと創生推進会議
議事録

1 日時 令和6年6月24日（月） 午後2時00分～4時00分

2 場所 清川村役場庁舎 3階 第2・3会議室

3 出席者 【委員】

大 学：松蔭大学観光メディア文化学部 客員教授 鷺尾 裕子

大 学：東海大学経営学部経営学科 教 授 亀岡 京子

産 業：清 川 村 商 工 共 栄 会 会 長 山口 昌興

産 業：清 川 村 森 林 組 合 組 合 長 高野 進

産 業：厚 木 市 農 業 協 同 組 合 清川支所長 程島 俊明

産 業：宮ヶ瀬水の郷観光協同組合理 事 藤谷 健一

金 融：横 浜 銀 行 厚木支店長 石井 智之

メディア：神 奈 川 新 聞 社 森 俊行

子育て：あおぞら保育園（社会福祉法人 白梅福祉会） 理 事 長 倉山 郁一

公 募：竹内 麗子

公 募：増田 美智子

（※欠席）

教 育：清 川 村 校 長 会 会 長 船津 慎一

行 政：神奈川県県央地域県政総合センター 所 長 黒岩 信

4 事務局 【政策推進課】

岩澤課長、岩本主査、黄金井主事

5 内 容

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1)清川村人口ビジョン（改訂版）（素案）について

(2)（仮称）第3期清川村まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について

(3)その他

4 閉 会

司 会 1 開 会

2 あいさつ

座 長 座長あいさつ

村 長 村長あいさつ

3 議 題

(1)清川村人口ビジョン（改訂版）（素案）について

事務局 ※資料1及び参考資料1, 2に基づき説明
座長 議題(1)の意見は議題(2)と合わせて、後ほど意見をいただくこととする。

(2) (仮称) 第3期清川村まち・ひと・しごと総合戦略(素案)について

事務局 ※資料2に基づき説明

委員 村の人口政策の中で3,000人という数字を出されたが、根拠は何か。

事務局 昨年度策定した第4次総合計画策定において、将来目標人口を3,000人と設定しています。将来目標人口については、策定の1年前から住民参加のワークショップや中学生ワークショップなどで議論を重ね、人口の減少がインフラ整備や住民サービスなどに支障を来すおそれがあることなどから、3,000人程度の水準を維持すべきと結論づけ、議会の承認を得たうえで設定しています。

座長 最近転入されてきた委員もいるようだが、人口減少を感じることはあるか。

委員 進学を機に一度村外に転出したが、村で子育てをしたく戻ってきた。学校に行くと1クラスしかなく、人口が減っていると実感する。

委員 やはり子どもが少ない。将来子育てのことを考えると、少数すぎる環境はメリットもあればデメリットもあると思う。

委員 子どもは確かに減っているが、村の保育園は、定員30名に対して現在35名ほどが入園している。総人口が3,000人未満の地域において、35名というのは多い方であり、先生の中にも清川に転勤したいという方がいるくらいには人気がある。

座長 子育て環境が充実していることが重要視される中で、村でも子どもの成長に合わせた教育や子育ての環境が整ってきているということだと思われる。

委員 他自治体の総合戦略では、いかに人口減少を緩やかにするかという戦略が多い中で、村は人口増を目指すことになる。努力だけでなくそれなりの資金を投入していかなければ、相当厳しい目標になる。

座長 戦略に何か盛り込むべきことはあるか。

委員 何か一つに特化すれば良いというわけではない。例えば、交通インフラの拡充を重点施策として据えたとして、交通事業者も厳しい経営状況の中で、乗客の見込めない路線を増便することはできない。近隣市町との広域観光事業との連携や消費拡大に向けた取組みなどと一体的に考える必要がある。

座長 観光事業に関して言えば、都道府県域を超えた取組みも検討する必要がある。村の観光産業の発展は、近隣市町も望んでいることと思うので、取り合いにならないような施策を検討していきたい。

事務局 総合計画と総合戦略の関係性については、資料2の2ページに図示しています。総合計画は、村の施策全体の方向性を示す10年間の計画であります。今回策定する第3期総合戦略は、総合計画から地方創生に係る施策を抽出したものと認識いただければと思います。また、本日お示した人口ビジョンを基にして、総合計画における将来

目標人口を設定しておりますので、それぞれの関係性についても同図によりお示ししています。子育て施策につきましては、国においても異次元の子育て政策と称してさまざまな取組みを進めているところでもありますので、村も一緒になって取組んでいきたいと考えています。また、他市町との連携につきましても、地域の発展に向けては重要であると認識しておりますので、あらゆる手段を活用して取組みを進めてまいりたいと考えています。

委員 村という独立した自治体がこれまで守られてきたことが重要。とは言え、人が住み続けるには経済が必要であり、自立していくには、仕事を創出していくことが戦略として重要ではないかと考える。

座長 生産年齢を過ぎた方が村に戻ってきて、今までの経験値を還元する仕組みがあれば、仕事創出につながるのではないかと。また、郊外などでは、同窓会が地域を活性化するうえで重要な機能を果たしている。そのような取組みにも期待したい。

委員 将来像に「ふるさと」をいう単語を採用したのは、一度転出しても最後には戻ってこれる地域になるという想いも込めていると記憶している。そうした考え方も、人口増には寄与するのではないかと。

委員 反対に、村内在住の若者の意見を聞く場はあるのか。例えば、情報発信のフィールドを SNS に置くことで、若者の目に留まる機会が増える。地道ではあるが、若者が村に興味を持つきっかけを増やすことも重要。他の都道府県に先駆けて、大学や高校と連携してもよい。

委員 村を訪れる人の多くは、宮ヶ瀬を目指して来訪しており、観光地としてみたときにはあまり強みがないというのが現実。煤ヶ谷地区にも伝統や祭りがあるので、これらを複合的に取入れ、一体となって盛り上げていくような情報発信の仕方や事業手法を検討しなければ、地域全体として発展していかないのではないかと。

座長 若者の中には伝統文化や歴史に興味のある方もいる。次世代に伝えていく仕組みも必要であるので、観光産業との連携は良い視点であると思う。

委員 宮ヶ瀬の魅力も広まりはじめ、この地で新たに商売を始めたいという意思を持つ方も増えてきているが、地域特性や既存産業とのミスマッチが多いと感じている。今ある産業や商店が継承できる仕組みがあると良い。

座長 新たな産業の創出と定着、既存産業のさらなる発展があつて、基本目標に掲げる「働きたい仕事をつくる」に繋がると考える。

委員 人口が減っていること自体は課題であるが、一定程度転入者がいるので、この点は評価して良いと考える。重視すべきは、転入者にも帰村者にも、転入する理由があるため、その方々の意見や理由を聞き、分析していく必要がある。それらを踏まえて、今後の会議でディスカッションができれば良い。

(3)その他

事務局 ※意見提出及び次回の会議開催予定について説明
座長 次回の会議までに総合計画に目を通していただきたい。
司会 以上で令和6年度第1回清川町推進会議を閉会する。